

アプリケーション開発体制

- 開発主体である理化学研究所と、重点課題実施機関、開発参画企業および連携機関が協力して開発体制を構築。
- 重点課題ターゲットアプリケーションを中心に、アプリケーション開発者と計算機システム開発者の協調によりアプリケーションおよびシステムを協調設計(Co-design)していく。

全体的な観点からプロジェクトを定常的かつ強力にフォローアップし、プロジェクトの進捗状況の把握・評価・改善提言・指導等を行う

アプリ開発、成果創出、社会還元に関与する責任を持つ取りまとめ機関（公募）

計算科学者を中心に、

- ・理論・応用数学者の協力の下、新アルゴリズム開発やアプリへの実装
- ・大型実験施設等の利用者や研究PJ等と連携した実証実験
- ・成果の社会還元を見据えた社会学者や産業界・自治体等との連携

等が実施できる分野を越えた関係者が結集した体制

ポスト「京」開発主体が、Co-designに責任を持つべく、実施体制に参画するとともに、重点課題間の連携や共通基盤技術の整備を担う

計算科学技術を活用する裾野を拡大していくため、分野コミュニティによる以下の取組を推進。

- ・萌芽的・基礎的研究の効果的な実施
- ・研究人材・利活用人材の育成
- ・先端アプリの維持・発展、利活用促進 等

※理研AICS：理化学研究所計算科学研究機構
 ※実施機関には理研AICSも含み得る。

